

企業名：平和堂

レポート名：平和堂レポート 2022

1. この会社が目指す姿が理解できるか

企業の目標や企業理念はレポート全体を通して繰り返し明示されており、またその具体的な施策も示されていた。平和堂の中心理念は地域密着の経営と従業員の幸福とされている。また 100 年企業に向けた目標として「地域社会の課題」「地球規模の課題」の解決を掲げ、前述の目標を達成するための「地域循環」「人権」「廃棄物」「温室効果ガス」「商品調達」の 5 つの重要課題と、それについての様々な具体的な取り組みの紹介をしていた。中心理念については地域密着のための取り組みやその具体例がレポート全体の様々なところで紹介されており、平和堂の中のその目標の大きさや、力の入れ方がうかがえた。また従業員の幸福についても「人権」の項目において男性の育児休暇や人材育成に力を入れていることなど、具体的な施策がうかがえたのは良かった。またそのほかの取り組みについても、取り組み内容が具体的にわかるような情報の提供がされていた。平和堂が目指す姿は、平和堂レポートを読むことで十分に理解できるのではないかと思う。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

平和堂の競争優位性は、地域に密着した経営を行うことで地域にとってなくてはならないかけがえのない存在となることだと見受けられる。企業の中心的理念が地域の活性化を支えることであり、また上でも述べた通り、その具体例として地域密着型の取り組みが数多く紹介されている。この点は競合する他の小売店舗と平和堂を差別化しており、平和堂の武器となっていると感じた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

平和堂の地域密着型経営は、少子高齢化で地域経済が縮小していくのを食い止め、それを活性化させることを見据えている。平和堂レポートには、地域の健康を増進することで地域全体の健康寿命を延ばし健康寿命≒平均寿命を目指していき、健康な人が増えることによって地域の雇用や経済を活性化させると書かれている。さらに、移動が難しい高齢者向けに移動スーパーなどのサービスも開発するなど今後のさらに需要が高まっていくだろうサー

ビスの提供を行っており、また同時に子育て世代の支援も行うなど、高齢者以外にも焦点を当てて地域全体を支援しようと取り組んでいることがわかる。今後日本は少子高齢化が進むことが確実視されており、そのなかでこうして少子高齢化社会をよりよくしようと取り組む動きは、今後も重要な役割を占めると考えられる。平和堂は未来を見据えた取り組みをしており、この競争優位性は持続性があると思われる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

平和堂レポートによれば、平和堂は地域になくなくてはならない存在を目指すため、仕入先などとの関りを深め、また地域密着を深化させることを目指している。そのためこの会社では、地域の人に寄り添った態度や対応、また仕入先などとの深いかかわりなど、適切なコミュニケーション能力やふさわしい人間性が求められていくように思う。また小売店販売を主な業務とするため、顧客のニーズを察知し収益を上げる能力も求められる。いずれの能力も社会では必要不可欠であるため、人的資本の価値向上は達成できるのではないかと思われる。また会社内でキャリアアップセミナーなども開催されており、能動的に自身の価値向上を目指せば、それは達成されるのではないかと感じた。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

平和堂レポートを拝見して、平和堂が小売販売業者という枠を超えて、それぞれの地域になくなくてはならない存在となることを目指していることがよく理解できた。また近年世間の関心が高い環境への配慮や女性の社会進出などの問題に関して、自社の情報や方針を提示していたことも良かったように思う。一方で企業理念として掲げる「全従業員の物心両面の幸福を追求する」という内容が、レポートを読むだけではいまひとつ伝わってこなかった。近年は、いわゆる「ブラック企業」など、会社内の待遇や環境にも世間の関心が高いように思うので、企業理念の説明や具体的施策という意味でも、この分野についてももう少し触れていたら良かったと感じた。